



郡 俊彦 議員

声なき声もきいて 10年計画を

問 総合計画等について日程や段取りを示すフォーチャートの提出を再三要求しているが、まだ出ていない。各種計画が総合的に整理されない状況で進んでいるのではないかと考えている。

答 今議会の中で提出したいと考えている。

問 5月実施の市民アンケートは、総合計画に当たって市民意識を客観的に把握するために、

3,000人サンプリングしたと言うが、地域協議会委員と市政モニターを加えたのはなぜか。特別な人を加えるのはおかしい。

答 市民一般の方だけでは見えない部分があり、モニターとか協議会にかかわった人がいろいろな目線で判断できるということもある。

問 アンケートの内容も、「皆

さん何を望んでいますか」と客観的に市民意識を把握する設問がない。市のすすめる政策について評価をといる前提条件があり、広い立場での選択の余地がない。

答 どこに力を入れて欲しいかを問うアンケートである。一人一人こういう問題をどうして考えるんだということを聞いていくのではない。



▲鹿島区を一望する



田中一正 議員

ネット活用で 地域格差是正を

問 近年、インターネットの利用による様々な取り組みがなされ、成果を挙げているが、本市において、導入する考えはないか伺う。また、医師不足が深刻な問題の中、遠くの有名専門医の指導のもと手術を受けられる遠隔医療に取り組む考えはあるか。

答 福島医大との間でCT等の画像を送信できるよう、取り組んでおり、今後とも遠隔医療等

の技術を導入すべく努力していく。

問 高齢化社会の到来の中、介護施設の不足が叫ばれている。テレビモニターやセンサーを使った在宅介護を支援するシステムの導入について伺う。

答 今回、総務省からの委託事業であるICT活用在宅介護システムモデル開発事業を受け入れる。当事業を参考にしながら



▲南相馬市立病院

問 有名講師の授業を受けたら、生の現場の映像を見ながら、学習が出来るシステムの導入等、遠隔授業の実施について伺う。

答 将来を見据えた場合、より効果的な授業の在り方については研究が必要であり、国の研究調査を参考にしながら検討していく。



太田淳一 議員

自主防災組織の 早期確立を

問 市内全地域における自主防災組織の確立について伺う。

答 市内の自主防災組織は180行政区中161行政区で確立されており、今後は平成21年までの3か年計画で、未結成行政区の組織化を図る。

問 まちづくり委員会および市民税1%を活用した市民活動団体に対する支援制度の創設について伺う。



▲防災訓練

答 鹿島区は10月、原町区は11月からの事業実施を予定し、小高区については行政区長会と調整中である。支援制度については、まちづくり委員会の活動の支援策としての活用を含め、本市の環境や実情に即した制度の導入に向けて具体的検討に入る考えである。

問 街なか賑わい創出事業について。市民市場・屋台村、チャ

答 原町区大町のサテライト地に集約して、平成20年度に施設整備を予定し、平成21年度にオープンしたいと考えている。小高・鹿島両区の振興策については、関係者と協議し地域の意見を伺いながら、地域特性を踏まえた振興策を検討する考えである。

質問順に掲載しています。
また、内容は紙面の都合で要約しています。

電力寄贈土地の活用について



平田 武 議員

問 現状における土地の利用計画及び映画村の導入は。
答 平成13年度に東北電力より約28haの土地が寄贈され、民間資本型の整備計画で検討してきましたが、具体的な活用策は出ていない。映画村については、全国に本市のPRを始め宿泊やエキストラにより経済効果もある機会があれば積極的に推進して行く。

問 市民の目線に立った行政の執行にあたり、各種審議会のあり方、職員教育、相馬野馬追のあり方について伺う。
答 審議会は、専門的知見の活用や当事者間の利害調整を図る目的と、さらに幅広い意見を市政に反映する目的に分類される。役割に応じて市民の声を集約し、適時適切な資料も提供の上、パブリックコメント制度も

活用する。職員教育については、本年度人材育成基本方針を策定し、行政サービスの担い手として、多様な研修を通して職員教育に努めて行く。相馬野馬追祭については、神社、騎馬会、商工関係団体等との意向を尊重し、開催日の変更や保存と振興の両面で検討する。本年度から中学生まで入場無料とする。



▲相馬野馬追

子供医療費無料年齢引き上げを



渡部 寛一 議員

問 子育て支援策の強化は、それこそ緊急を要することです。現在、南相馬市での医療費無料の年齢は小学校入学前までになっています。この対象年齢を中学校卒業まで、当面は小学校卒業まで引上げていただきたい。今や県内16市町村で、小学校入学以降の医療費無料化が実現されています。更に本市では、本年3月議会で「年齢引き上げ

を求める請願書」が全会一致で採択されています。
答 学童への医療費助成拡大は、本市の課題と受け止めています。5月には、県主催の地域懇談会で対象年齢引き上げを要望している。今後は、県や他市の動向を踏まえ、今年から2か年で策定する「南相馬市健康福祉総合計画」の中で、総合的に検討していく。



▲さあ、楽しいプール遊び

子育て支援は、それこそ急がなければならぬ。のんびりと計画している段階ではありません。緊急に実現されることを強く指摘します。



大甕産廃処分場問題について



櫻井 勝延 議員

問 事業者が国税の滞納を続けていること。株券がクリーンハウスという会社に渡っていること。土地が譲渡されて福島2号なる会社に移行していることをどう捉えているのか。
答 報道等で承知している。
問 公約の用途変更の申し入れは。係争中であることから、裁判の結果を踏まえて対応したい。
○市民満足度向上策について



▲大甕産廃処理施設計画地

問 市は、広報紙等で市民サービスが向上したとしているが、市民満足度についてどのよう捉え、満足度向上のためにどう取組んでいくのか。
答 総体的には向上している。制度的要因により一部低下した市民サービスもあるが、サービス改善を図るため、平成19年度で予算化し、全市に拡大した事業もある。

今後とも市民が納得する質の高い行政サービスの提供に心掛けたいと考えている。
問 本来、合併を分権分散型と決めた区に対して、当初から市長は違和感があったのか。
答 経過から言うと、ある面ではそこに申し上げたような印象も正直言っていないわけではない。しかし、時間をかければそれはいずれ解消されていくと思っている。